底流

新型コロナウイルス感染拡大における『外国人対応医療の課題』

外国人が感染症に関する医療情報を的確に共有できる体制作りと具体的な医療提供体制の構築が求められている。

突然のパンデミックで訪日外国人は激減したが、渡航制限の緩やかな解除のもと、ビジネストラックは拡大傾向にある。一方、多くの在留外国人はこれまで通り日本で経済活動を続けている。情報が錯綜する現況で、外国人が感染症に関する医療情報を的確に共有できる体制作りと具体的な医療提供体制が求められている。

令和2年4月に日本医師会は、外国人に対する医療支援の一環としてAMDA国際医療情報センター新型コロナウイルス感染症多言語相談窓口事業に協力、コロナ禍における外国人対応医療の実態把握と、電話相談窓口の必要性を検討した。

相談者は55カ国に及び、「新型コロナウイルス感染症の症状がある」という相談が半数近くを占め、医療通訳の要請、生活上の不安、公的な助成金に関することなど相談は多岐に渡った。

東京の在留外国人の居住地は地域特性があり、生活習慣や宗教上の理由、利便性で都内の各地でコロニーが形成され、それぞれの文化を守りながら地域の経済活動の一端を担っている。しかし、感染拡大に伴う自粛により社会生活は制限され、特に飲食業界に従事する非正規雇用者など生活に困窮する外国人も少なくない。

厚生労働省はホームページで、外国人に対し多言語で新型コロナウイルス感染症に関する情報や労務関係、休業支援や給付金の情報を提供しており、東京都は『東京都外国人新型コロナ生活相談センター（TOCOS）』を設置している。

外国人がPCR検査を受ける機会や医療機関を受診するケースが増加するなか、感染予防の立場から通訳者や家族の立ち合いが難しく、インフォームドコンセントに苦渋する場面も多くみられる。東京都医師会では、都内の医療機関には医賠責に付帯された電話医療通訳サービスや東京都の医療機関向け緊急通訳サービスの利用を推奨している。また、順天堂大学は定型的な日本語を「やさしい日本語」に置き換える取り組みをしており、動画『新型コロナウイルス検査編』を公開している。

訪日外国人の増加に向けて、PCR検査・抗原検査の精度管理や世界基準、また渡航者の出入国前後の検査結果や行動履歴の情報共有が可能な『コモンパス』など、世界共通の電子証明書の活用も検討事項だ。訪日外国人の新型コロナウイルス感染症に係る医療費に関してダイヤモンド・プリンセス号の事例が報道されたが、今後、財政的に公費負担を継続することは難しい。入国時の民間医療保険加入の義務化、さらに感染症法の再検討も早急に求められている。

（島﨑美奈子）

地区医師会長連絡協議会報告

令和2年12月18日（金）

◎都医からの伝達事項

（1）年末・年始の発熱患者などの診療体制確保に関する通知の発送について

東京都より診療・検査医療機関に対し、「東京都年末年始の診療・検査体制確保支援事業（案）」を案内するとともに、診療・検査体制の確保の協力依頼がなされている。多くの診療・検査医療機関の協力をお願いする。

（2）令和2年度東京都医師会予防接種講演会の開催について

例年開催している予防接種講演会を1月に予定している。テーマは新型コロナウイルスワクチンについて。各地区医師会1名の出席をお願いしたい。

（3）コロナ・インフルエンザWEBシステム構築のお知らせおよびご協力のお願いについて

新型コロナウイルス感染症とインフルエンザの感染状況をリアルタイムで把握できるシステムを構築した。本システムは診療所や病院においてデータを入力することにより、感染情報をリアルタイムで地図上に表示し、地域レベルで感染状況を把握することが可能となる。本会より直接都内全医療機関に通知するので、多くの会員に協力してほしい。

（4）令和2年度第2回東京JMAT研修会の開催について

2月23日（火・祝）午前9時から東京都医師会館で標記研修会を開催する。災害医療チームは医師だけではなく、看護師、事務等も含めて構成されること、さらに行政との連携も必要なことから、医師、看護師、事務等および行政職員の参加も受け付けている。特に地区医師会の担当理事および東京都災害時医療救護従事者、令和2年度の区市町村災害医療コーディネート研修会の対象地域の区市町村災害医療コーディネーター・区市町村職員の方にもぜひ参加してほしい。

（5）医療事故調査制度研修会の開催について

2月27日（土）午後3時から東京都医師会館で標記研修会を開催する。医療事故調査制度の周知徹底と支援団体連絡協議会の支援態勢などの周知を目的としているので、多数の方に参加いただけるよう、会員への周知をお願いする。

◎地区医師会からの報告

（1）中央ブロック

①予防接種の無料接種について（練馬区医師会）

（2）城東ブロック

①若年層健診の対象年齢の拡大について（武蔵野市医師会）

②健診事業（若年層・特定健診・後期高齢者健診）の健診期間の延長について（武蔵野市医師会）

③子ども医療費助成の拡充について（対象年齢の拡大）（武蔵野市医師会）

④「武蔵野市くらし地域応援券」事業について（武蔵野市医師会）

（3）城西ブロック

⑤COVID-19対策のWEBセミナー開催と動画配信について（八王子市医師会）

（4）城南ブロック

（5）城北ブロック

（6）多摩ブロック

（7）大学ブロック

◎出席者による意見交換

◎その他

（1）令和2～3年における年末年始の休日薬局支援に対するお願い

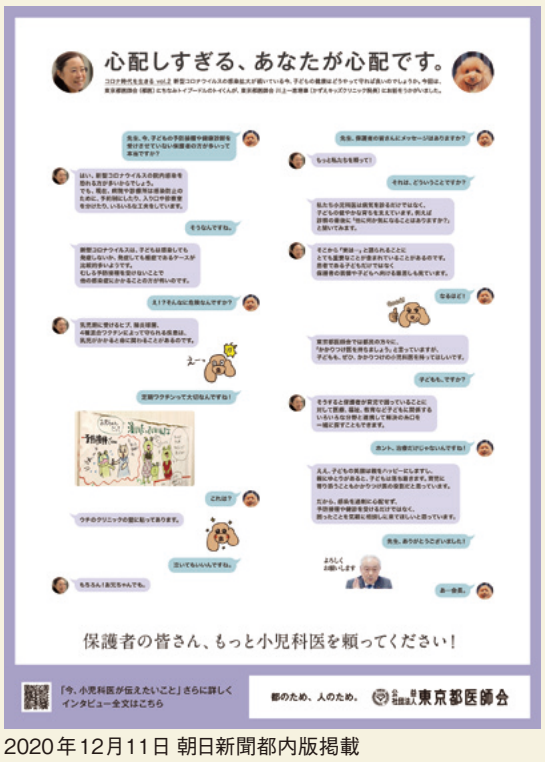
（品川区医師会）

（2）新型コロナウイルス感染症のワクチン接種の状況について

（練馬区医師会）

（3）新型コロナウイルス感染症等対策に関する広報活動について

子どもの予防接種や健康診断など必要な受診を控えないよう呼び掛ける広告を12月11日（金）の朝日新聞都内版に掲載した。インタビュー記事の詳細版は朝日新聞デジタルで公開している。（左記参照）



2020年12月11日 朝日新聞都内版掲載

新型コロナウイルスの感染拡大が続いている今、子どもの健康はどうやって守れば良いのか。
子どもの定期ワクチン接種や健康診断などの受診を控えている子育て世代に向けて、今、小児科医が伝えたいことを朝日新聞デジタルで公開している。

https://www.asahi.com/ads/tokyomed202012toi/

蜷川 有紀「Androgynous － いつも一緒に －」

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、多くの企業・団体のみなさま、個人のみなさまから寄附や支援物資をいただいております。みなさまの温かいご支援、ご厚情に心より感謝申し上げます。